

## 総務委員会会議録

平成25年10月23日（水）

午後1時30分 開会

### ○伊東英委員長

ただいまから総務委員会を開会します。

協議題1.「閉会中の調査事項について」を議題とします。

前回の委員会で、調査テーマを「オープンデータについて」に決定いたしました。本日は、オープンデータについての勉強をしまして、委員の皆さん、私も含めて、全員の理解を深めて、視察に向けていきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

それでは、まず、当局から説明をお願いいたします。

### ○竹部秘書広報課長

本日は企画部長に公用がありまして欠席をさせていただいております。内容につきましては、詳しい職員から説明をさせていただきますのでよろしくお願いいたします。

### ○工藤秘書広報課主事

[資料に基づき説明]

### ○伊東英委員長

ありがとうございました。ただいまの説明にご質疑ありませんか。

### ○久世孝宏委員

手間がかかるという説明がされた中で、今、市役所で持っているデータをオープンデータで持っている情報は何かありますか。誰でも使えるデータはあるのでしょうか。

### ○工藤秘書広報課主事

オープンデータ概念に合致するものとしては、毎年4月1日現在の人口については、年齢別と町別で提供はしております。ただ、毎年1年に1回しか公表はしていません。その他ですと、まだその取り組みは全くできていないという認識はしております。

### ○久世孝宏委員

提供しているだけではなく、提供しなくても、例えば防災の避難所とかがある、防災交通課が作っている地図などを作るには、当然紙になる前に今ではほとんどパソコンなどで作っていると思いますが、そうなった時に、どういう形式だとみんなが利用しやすいデータかどうかわかりませんが、そういう状態で役所が持っているのか、それとも印刷は結局業者に出してしまっていて、業者が持っているデータであって、役所は使いやすいデータとして持っているのか持っていないのか。という質問ですが、紙で配るという取り組みを半田市はまだまだしているの、説明にでてきたような位置だとか紙ベースで持っていると思うんですが、業者が作って納入しているんですよね。では、業者が持っている加工ができる状態のデータとして役所が管理しているのか。業者が持っているのか。という部分の質問ですがわかりますか。

### ○工藤秘書広報課主事

今、紙で提供されているものは100%、我々もわかっているわけではないですが、基本的には、我々も紙ベースもしくは地図の中に位置として書き込んだ形で提供していたりするので、管理をしているかと言えば管理はしていますが、それが、ここでいうオープ

ンデータの形で提供しやすい形かという点、多分そこまではできていないと。もし、オープンデータという形で提供することになると、緯度経度情報という数値情報に落とさないとまずできないと思いますし、それ以外の付加情報みたいなものができていないといけないのですが、今の半田市の状態で言えば、そこは紙と同等のものの情報でしか管理できていない。というところになりますので、もしオープンデータとして公開するのであれば、そういう緯度経度情報という形などでCSVのデータを作らなければいけないというような状況だと認識しています。

○伊東英委員長

他にご質疑はありませんか。

○小栗佳仁委員

今、人口の話をしていただいたのですが、私はこれを議員になってすぐ活用し始めたんですね。各小学校区ごとの人口、年齢別人口動態とか、いろいろなものを調査してグラフにして表示したんですね。その情報を分析した結果を例えばオープンデータを活用して行政へ提供できればなというところが一つありまして、先ほど配布されました「横浜市によるオープンデータの挑戦」というところの中に、オープンデータを推進する意義の欄にありますようにやはり市民と共有化するという部分と今回の調査テーマであります活用というところで上手く結び付けていけば、今言っていたような人口動態。こういったものの分析を市民がいろいろやって、情報として。そういう好きな人がいますので活用できたらさらに進むのかなというところなんです。そう言ったところまで、オープンデータとして捉えたらいいと思いますがいかがですか。

○工藤秘書広報課主事

そうですね。小栗委員のおっしゃっているとおりだと思っております。我々としてはまず公開をしなければ何も始まらないと。公開をすることによって、当然我々が予測できる分析もあると思いますが、そうではなくて、市民の皆さんが自分たちの知りたいことを分析できるようにしていただくということもありますし、その分析していただいたものが我々行政にとって、とても役にたつものも多分あると思います。それを我々行政も反映させていただくという利用価値は非常にあると思っております。以上です。

○中村宗雄委員

では、教えてください。この流山市の資料にあります、オープンデータ化している、ここに書いてあることを現実的にするとこんなことになってしまうのかなと思いますが、ここに書いてある程度のことをデータ化してオープンにするのに、先ほど言われた人的コストなど延べ何時間ぐらいかかると考えればいいのでしょうか。元のデータも見ただけがないので、元がきちんとしていればこんなことは大の大人であれば2日もあればできてしまうのかなという気もするんですが、どんな感じでしょうか。

○工藤秘書広報課主事

それぞれに対して作業見積もりをしたわけではないので正確には言えないですが、まず今、元の情報が我々の持っているものであれば、さほど半日もあればどれもひとつの項目ではできるのではないかという形だと思っております。ただ、行政だけの情報ではなく、他が管理している情報も含めるとなると、またその収集の時間がありますので、そこまでのところは難しいです。例えば、観光、歴史、野外活動用貸出備品や流山100か

所巡り、桜の名所などもありますが、今から集めなくてはならないようなものは時間がかかるかと思いますが、そうではなくてある程度まとまっているものであれば、誰かが半日費やすということであれば1項目それぞれ半日ぐらいでできるのではないかと考えております。

○中村宗雄委員

イメージ的に、例えば最初のAED設置場所などは、実際にリストがあり、その緯度経度情報を入れて、地図に落ちて、そこをクリックすると出てくるようなイメージに加工するということか。

○工藤秘書広報課主事

仮にAEDの情報ですと少し推測が入りますが、まず今我々が持っているのは、例えば、クラシティの3階にAEDがあります。オープンデータとして公開しようとする時には、クラシティの緯度経度はどこか。ということと、それを全部並べて公開できる形にしなければいけないので、今その状態にはなっていないので、それをかき集めて整理することになりますので、ある程度それくらいの手間はかかると思います。

○中村宗雄委員

要するに手間暇かけてオープンデータ化した時に、例えば、流山市の公共施設所在地、コミュニティがどこにあるかをオープンデータ化したところで、きっと何を今さら言っているのかみたいなのところもあると思います。逆に市民に有益な話では、活用が期待される分野の中で、地質データがあるじゃないですか。例えば、半田市が公共工事をするときのボーリングデータを地図で全部公開したら、すごく有益な情報になると思うんですね。ある専門的な分野だったらすごく価値のあることだと思うんですが、あまりにもギャップがありすぎるというか、そんなことをやろうとしたら大変ですよ。公共施設の所在地と一緒にレベルですか。これは別のホームページをみれば簡単に調べられると思いますが。

○工藤秘書広報課主事

確かに、地質情報などはどういう公開の仕方があるかというところから検討しなくてはならないと思いますが。それに比べれば公共施設の位置は、非常に簡単な話だと思うので、データを公開するための差はあると思います。地質情報等は、ボーリングデータのような情報は点在しているので、それをまとめていただくと有難いという話は伺ったことがあります。

○中村宗雄委員

説明をしていただいて予想通りというか。要するに皆さんが手探り状態で、世間が始めたばかりじゃないですか。調査テーマを選んで視察をして、何かひとつの答えをださなくてはならないと思いますが、出来もしないことをやれというように結論づけるわけにもいかななくて、例えば、流山市に載っているようなこんなことを一生懸命やっていたところで、市民は何をやっているんだという話だと思うんです。使えない情報をオープンデータ化するというか、どこら辺をゴールにするのか。オープンデータの問題や考え方はもちろん理解できましたが、実際に何をデータ化するべきか。というソフトの部分を調査研究しなくてはならない中で、先進事例がなさそうだと。困りましたというふうに思っていますが、これは当局に質問というよりも独り言というのか。

○竹部秘書広報課長

結果的にデータとして提供しているのはこれですが、これは市側だけで判断しているのか、データとして準備する中身について、市だけではなく市民も含めて、どのようなデータが有効なのかということ。市に必要なデータを公開していくという議論も必要ではないかと実際にやるときにはそう思います。

○石川英之委員

流山市のホームページからいろいろなオープンデータをクリックしていくと、緯度経度が全部数字ででてくるんですが、これを市民が要るんですか。よくわからなくて。例えば、先ほど議長が言ったように、AEDの設置場所を数字で出さなくても地図で出てきたほうがわかりやすいし、この近くに緯度経度が出されても自分が今どこにいるかもわからないのに、これをいくら調べても何もならないと思いますが、こういうものなんですか。全然わからないのですが。

○工藤秘書広報課主事

オープンデータの資料について、ここに書いてありますが、緯度経度情報という数値データの話ですが、これは概念図の真ん中の左側の公開データが該当します。実際にデータだけでいいかということよくないですが、何が重要かということ、この右側にあるデータを利用するアプリ。アプリが実際には緯度経度情報を読み込んで地図上に表示して、旗マークがついてここですよ、自分の位置情報から比べて一番近いところはここですよ。というのをアプリケーションが指し示してくれるということになりますので、公開するだけでは、確におっしゃるとおりうれしくもなんともなくて、利用するアプリが必ず必要になりますし、アプリが非常によくできたものだと使いやすいですし、あと複数のデータをつなぎ合わせてくれるともっと便利なものになると思います。以上です。

○竹部秘書広報課長

なぜ鯖江市が進んでいるか調べたところ、市民の中にアプリを開発する、知識もあり積極的に取り組んでくれる方がいて、市側が行政情報を出してくれると活用してアプリを開発してまた提供できる。一部、営業があるかもしれませんが、若干そういった背景があります。

○伊東英委員長

しばらく休憩します。

午後 2時01分 休憩

午後 2時51分 再開

○伊東英委員長

委員会を再開します。次回の総務委員会を11月13日9時30分から12時までということで、今日のテーマの宿題として、委員の皆さまに、最終目標が市民との情報共有・活用について」を目指して、手法もいろいろありますが、この点で今回オープンデータとうことが調査研究材料になりました。今までのフェイスブックやフィックスマイストリートジャパン、それからこのオープンデータに関して、勉強した中で何の方向性を求めていいかということをしつかりと最終目標までを決めていきたいと思います。それで皆さんのご意見を参考に絞って、委員長として決めていきたいと思いますのでよろしくお願いたします。11月6日までに資料を送っていただきたいと思います。よろしいで

しょうか。

【異議なしとの声あり】

それでは、本日の委員会は閉会いたします。

午後 2時55分 閉会